自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900078		
法人名	社会福祉法人 旭川福祉事業会		
事業所名	グループホーム ゆとり (つづユニット)		
所在地	北海道旭川市永山4条3丁目1番20号		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果市町村受理日	平成24年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大雪山連峰に囲まれ、近くには観光名所である旭山動物園があります。職員は入居者様と色々な所へ出掛け楽しい日々を送られています。個々のかかりつけ医や当グループホームの医療連携機関及び歯科往診等と連携をとり、安心して過ごされるよう取り組んでいます。入居者様の身体的精神的状況に重点を置き、個別ケア(個別レク及び集団レク等)を行う事により、残存能力の現状維持や低下防止に努めています。地域包括支援センターや北海道認知症グループホーム協会及び行政等の研修に積極的参加を行い、情報共有や職員の質の向上に努めています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900078&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年1月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<火災や水害、地震等に備えた対策の実施>
 年2回の避難訓練の実施や日中、夜間を想定した総合避難訓練を事業所独自に実施し、全ての職員が災害時等に速やかに対応できるように訓練していると共にそれが身に付いているかを確認している。また、防災訓練に家族の参加を呼びかけたり、地元の人々に避難誘導の際に利用者の判別がつくようにファイルを作成し、協力体制の構築にも具体的に取り組んでいる。
<本人の希望に沿った外出支援>
 入居年数とともに一人ひとりの身体機能が徐々に低下してきているが、本人のその日の希望に沿って保育園の運動会や中学校の学校祭見物や銀座商店街のお祭り参加、常盤公園散策やショッピングモールでの買い物、花見や博物館見物、すし等の外食で戸外に多く出かけられるよう支援し、家族の参加も呼びかけている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念である『ご利用者とともに、生きる力と喜びを、地域に安心と信頼の輪を、私たちは常に可能性を追求します』を、朝のミーティング終了後に唱和を行い実践につなげています。	法人理念に基づき、朝のミーティングで唱和を行うなど職員間で理念を共有し、その実践に取り組んでいる。また、見やすい場所に掲示し、家族や来訪者等に公表している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方より入居者様の為にと花壺を頂いたり、廃品回収の協力を行っている。運営推進会議では町内会の委員が欠席されても別な委員の方も登録し、必ず出席されるように行っています。	災害時の協力体制構築や地元の花火大会参加やお祭り参加、事業所の夏祭りを開催して、地域の人達との交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会の総会にて、認知症について報告等を行っています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で提案された事案を、業務推進会議(月例会議)にて報告し、サービスの向上を図っています。	運営推進会議では、緊急時の地域との協力体制構築や利用状況等具体的に報告や話し合いが行われ、そこでの意見を運営に反映している。	具体的内容について話し合わせ、業務の改善に取り組んでいる。今後は、年6回を目安に開催されることを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話による確認や訪問及び書類提出時等に、状況などの報告を行い連携に心掛けている。また、旭川市主催の勉強会及び研修に積極的に参加をしている。	日常業務や市担当者、包括支援センターの研修会参加等で情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・虐待防止検討委員会で検討した議案を他職員に周知徹底を行っている。	身体拘束廃止委員会の研修を通じて、全ての職員が指定基準及び予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、重要性や知識向上に努め業務推進会議で研修報告を行い、共有を深めている。また、虐待に触れていないか職員同士でチェックを図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加により業務推進会議にて研修報告を行って知識を深めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される方や家族様に対して十分な説明をし、入居・退居時には安心や納得して頂けるように行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの玄関にご意見箱を設置している。苦情相談受付窓口(苦情解決責任者含む)を掲示している。また、入居者様やご家族様の要望等があった場合には業務推進会議に反映を図る。	外出や事業所主催の行事参加を呼びかけたり、災害時の避難訓練の案内をするなど家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるよう取り組み、苦情等は受付箱を設置して、啓発に取り組んでいる。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員とはコミュニケーションを図るように努め、業務推進会議等で意見や要望を聞く機会を設けている。	職員の福利厚生の実施を図り、離職を最小限に留める取り組みや資格取得への支援、法人内外の研修を継続的に受ける機会の確保等が行われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態や能力に応じて、雇用形態(パートから準職員及び準職員から正規職員への登用)を考慮している。次年度より部分的に人事考課制度を取り入れる。また、資格取得の助成制度を取り入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を積極的に取り入れている。業務推進会議にて報告を行い、知識向上に努めている。就業しながら資格取得(ヘルパー2級等)の為、講習参加等が可能になるよう考慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の研修及び北海道認知症グループホーム協会主催の研修に参加し、同業者等の交流の機会を作り、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接にて、ご本人様より要望等の話しを十分に聞き、安心感が持てるよう関係作りに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接にて、家族様より要望等の話しを十分に聞き、安心感が持てるよう関係作りに努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学等による相談を含め、細かい部分まで傾聴し必要なニーズを支援していけるように努めています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員視点にならず、入居者様の視点でのケアサービスに努め、人生の先輩者として尊厳を持ち、コミュニケーションを図りながら良い関係作りに努めています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会及び行事参加等で来所された際は、ゆっくりと寛げる環境作りに努めている。また、入居者様の記録等を開示し情報の共有に努め、ご家族様と一緒に支えていく関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊を勧めたり、気兼ねなく面会等に来られるように努めている。	本人がこれまで大切にしてきた自宅への外泊支援や保育園児・中学生との交流、地元のお祭り参加や商店街見物等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が孤立しないように、職員が気配り・目配りに努めている。また、入居者間でトラブルが生じた際には、スムーズに間に入りその場が和やかな雰囲気になるように行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され契約が終了されても、家族様から気軽に相談される環境に努めている。また、長期入院の場合には見舞いを行い、家族様の心の支えになれる様に努めています。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間に余裕が無く希望に沿ったサービス提供がなかなか困難であるが、コミュニケーションを図り出来る限り意向に近づけられるようにアセスメントやカンファレンスにて検討を行う。	業務推進会議で、給食委員会や行事担当委員会等の各委員会から研究活動の報告や提案について意見交換され、一人ひとりの生活歴や嗜好の把握等で個々の具体的なサービスの質の向上に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより把握を行っている。また、詳細等は入居者様や家族様とコミュニケーションを図りながら努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録表に記載され、情報の共有に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で状態変化があった場合は、その都度対応し業務推進会議やカンファレンス等で検討し介護計画に反映を図っている。	センター方式を活用して、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意見やカンファレンス・モニタリングを通じて職員の意見を介護計画に反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を確認し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況を把握し、柔軟な対応を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当グループホームの地域及び入居者様が関わっていた地域の祭事等に参加する支援を実施しています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様及び家族様の希望や要望に沿った、かかりつけ医の受診や月2回の医療連携機関の往診及び歯科往診の利用の支援に努めています。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医療連携で医師・歯科医師・訪問看護師等の確保など適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームは、看護職の配置はないが体調変化が生じた際は、その都度医療連携機関の看護師に報告を行い、医師の指示を受けて適切に対処を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医及び医療連携機関と、連絡を密に行い状態把握(定期的入院先へ状態観察に伺っている)に努めている。また、職員へ状態報告や個人記録に記載し、情報の共有を図っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、医療機関と家族様及び当グループホームの管理者とムンテラ等連携を密に行い、入居者様にとって良い支援に努める。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時の一人勤務に不安を感じるが、応急手当及び対処方法の内部研修を行い、緊急時に備えている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練を実施。運営推進会議にて非常時には地域の協力を要請している。災害時には建物が使用不可能になった場合、母体施設である特別養護老人ホームへ一時避難が可能である。	日夜を想定した総合避難訓練を実施し、全ての職員が災害時等に速やかに対応ができるように訓練していると共にそれが身に付いているかを確認している。また、地元の人々との協力体制の構築にも具体的に取り組んでいる。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応、記録等の取り扱いには十分配慮を行っている。プライドや羞恥心も配慮しプライバシー保護に努めている。	不適切な対応や言葉掛けについて、内部で注意しあったり、業務改善会議で話し合うと共に自己評価を通じて、不適切なケアがないように周知している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように様々な選択肢を用意し説明を行いながら実行に努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や買い物等施設側の都合で行っているが、個々の希望を受け止め、個々のライフスタイルに合わせられるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容に行く事が出来ない入居者様は、訪問理美容を利用していただき、好みのカットや毛染めの支援を行っている。また、ショッピングにて自ら服を選んで購入をしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に嗜好調査をし、個々の好みに合った食事を提供しています。また、入居様が自ら準備や片付けに携わっている。	食事が楽しみなものになるよう、給食委員会で一人ひとりの嗜好を把握し、食事を楽しんで行えるよう検討している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事量・水分量等記載し把握に努めている。摂取量が少ない場合には、医療連携機関に報告し指示による健康維持に留意している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの支援や言葉掛けを行い、個々の能力に応じて自立支援を考慮し清潔保持に努めています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の活用により個々のパターンを把握し、トイレでの排泄が可能な入居者様には誘導を行い自立支援に努めている。	見やすく簡素化された記録の排泄表で排泄パターンを把握し、一人ひとりの力や排泄のパターンや習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中には、ラジオ体操やストレッチ体操を取り入れている。また、食事や水分量及び排泄表の活用により、状況に応じて医師に相談を行い下剤等の調整を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決めさせて頂いているが、個浴を基本としている。のんびりとした時間が多少個人差が見られるが、ゆっくりと入浴が出来るように努めている。また、拒否や体調不良があった場合は状態を考慮し時間調整を行って清潔保持を図っている。	身体機能の低下やうまく意思表示できない本人に配慮しながら、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のライフスタイルに合わせて支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書等は個人記録表に綴り、変更や増減の際には写真も記録に綴り情報を共有している。与薬の場合には、名前を呼びかけ誤薬に注意し、飲み込みの確認も行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や得意な事を把握し、日々の中でレクリエーション(読書や貼り絵、カルタ取り等)を行っている。ショッピングや小グループ外出、外食を取り入れて気分転換の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節柄の外出計画(花見・お祭り・花火等の見物)を立てて実施している。また、ショッピングや外食も実施している。家族様に案内を送り同伴も取り入れています。	入居年数とともに一人ひとりの身体機能が徐々に低下してきているが、本人のその日の希望に沿って保育園の運動会や中学校の学校祭見物や銀座商店街のお祭り参加、常盤公園散策やショッピングモールでの買い物、花見や博物館見物、すし等の外食で戸外に多く出かけられるよう支援し、家族の参加も呼びかけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かり金として管理者が管理しているが、自己管理がある程度可能な入居者様は、家族様と相談し財布を持参して頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人々の部屋には、電話が設置可能となっているので、入居者様と家族様が希望されれば使用をいただいている。尚、当グループホームの電話を自由に使用(無料)可能になっている。また、はがき等の代筆も行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの吹き抜け天窓には、直接日光が差さないようステンド調やすりガラスのシールを貼り、長時間ソファで寛いでも快適である。壁には入居者様の作品展示や写真等を掲示したり、季節に合わせて模様替えも行っている。	とにかく共用空間は広く、明るく清潔感が漂っている。また、季節毎の飾りつけや利用者手作りの作品等が飾られていたり、一人になったり、談笑ができるように椅子やソファが配置され、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを囲んで、1人掛けソファと3人掛けソファを設置し、ゆったりと寛げるスペースを設けている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前に使用されていた馴染みのある箆笥や椅子・花瓶・写真等を持ってきて頂き、安心して落ち着きやすい居室になるよう支援を行っている。	居室には、本人や家族と相談しながら、入居前に使用していた馴染みの家具やソファ、家族の写真等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・玄関等に手すりを設置し、移動の際は安全に自力歩行が出来るよう支援している。一部の居室に手すりを設置し、残存能力の維持に繋がっている。食器拭きや居室の掃除も共に行っている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	週3回の入浴日を設定しているが、マンパワー不足の為、日中帯に入浴をされない入居者様に対しての関わりが薄い。	会話等ゆっくりは無理だが、観察や見守りを含め少しでも関わりを持っていく。	職員の勤務形態にもよるが、入浴者の整容動作を行っている際に、多少でも会話や気遣いに努めて行く。	12ヶ月
2	7	虐待防止について、不適切な言動が無意識にあった場合の対処。	不適切な言動に注意する。	不適切な言動があった場合、職員間で注意をするように実践している。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900078		
法人名	社会福祉法人 旭川福祉事業会		
事業所名	グループホーム ゆとり (ななかまどユニット)		
所在地	北海道旭川市永山4条3丁目1番20号		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果市町村受理日	平成24年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大雪山連峰に囲まれ、近くには観光名所である旭山動物園があります。職員は入居者様と色々な所へ出掛け楽しい日々を送られています。個々のかかりつけ医や当グループホームの医療連携機関及び歯科往診等と連携をとり、安心して過ごされるよう取り組んでいます。入居者様の身体的精神的状況に重点を置き、個別ケア(個別レク及び集団レク等)を行う事により、残存能力の現状維持や低下防止に努めています。地域包括支援センターや北海道認知症グループホーム協会及び行政等の研修に積極的参加を行い、情報共有や職員の質の向上に努めています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172900078&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成24年1月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当法人の理念である『ご利用者とともに、生きる力と喜びを、地域に安心と信頼の輪を、私たちは常に可能性を追求します』を、朝のミーティング終了後に唱和を行い実践につなげています。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方より入居者様の為にと花壺を頂いたり、運営推進会議では町内会の委員が欠席されても別な委員の方も登録し、必ず出席されるように行っています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会の総会にて、認知症について報告等を行っています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で提案された事案を、業務推進会議(月例会議)にて報告し、サービスの向上を図っています。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話による確認や訪問及び書類提出時等に、状況などの報告を行い連携に心掛けている。また、旭川市主催の勉強会及び研修に積極的に参加をしている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・虐待防止検討委員会で検討した議案を他職員に周知徹底を行っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、重要性や知識向上に努め業務推進会議で研修報告を行い、共有を深めている。また、虐待に触れていないか職員同士でチェックを図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加により業務推進会議にて研修報告を行って知識を深めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される方や家族様に対して十分な説明をし、入居・退居時には安心や納得して頂けるように行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの玄関にご意見箱を設置している。苦情相談受付窓口(苦情解決責任者含む)を掲示している。また、入居者様やご家族様の要望等があった場合には業務推進会議に反映を図る。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員とはコミュニケーションを図るように努め、業務推進会議等で意見や要望を聞く機会を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態や能力に応じて、雇用形態(パートから準職員及び準職員から正規職員への登用)を考慮している。次年度より部分的に人事考課制度を取り入れる。また、資格取得の助成制度を取り入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を積極的に取り入れている。業務推進会議にて報告を行い、知識向上に努めている。就業しながら資格取得(ヘルパー2級)の為、講習参加が可能になるよう考慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の研修及び北海道認知症グループホーム協会主催の研修に参加し、同業者等の交流の機会を作り、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接にて、ご本人様より要望等の話しを十分聞き、コミュニケーションを取りながら安心感が持てるよう関係づくりに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接にて、家族様より要望等の話しを十分に聞き、安心感が持てるよう関係づくりに努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学等による相談を含め、細かい部分まで傾聴し必要なニーズを支援していけるように努めています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の視点に合わせ、安心したケアサービスに努め、コミュニケーションを図りながら良い関係作りを行っています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会及び行事参加等で来訪された際は、ゆっくりと過ごして頂くと共に、入居者様の記録等を開示し情報の共有に努め、ご家族様と一緒に支えていく関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気兼ねなく面会等に来られるように努めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、安心して生活が出来るように、職員が気配り・目配りに努めている。また、何かトラブルがあった時は、十分に傾聴しその場が良い雰囲気になるように行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され契約が終了されても、家族様から気軽に相談される環境に努めている。(管理者対応)また、長期入院の場合には見舞いを行い、家族様の心の支えになれる様に努めています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりコミュニケーションを図り、思いに沿った意向に努めています。困難な場合は、徐々にくみ取るように努める。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際に、本人や家族様より情報の収集を行い、安心して生活が出来る「場所・暮らし方」に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に観察を行い、言動や能力等変化の気付き及び持っている力が十分に活かせるよう支援している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様にとって良い暮らしが出来るように、カンファレンス等で検討し介護計画に反映を図っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個別記録に記入し、情報を共有しながら介護計画に反映している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に健康状態を観察し、医療との報・連・相をし柔軟な対応を行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域及び入居者様がかかわっていた地域の行事等に参加出来る支援を実施しています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様及び家族様の希望に沿った、かかりつけ医の受診を行っている。月2回の医療連携機関の往診及び歯科往診の利用の支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームは、看護職の配置はないが体調変化が生じた際は、その都度医療連携機関の看護師に報告を行い、医師の指示を受けて適切に対処を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医及び医療連携機関に入院された場合は情報提供を行い、連携を密にしている。また、職員へ状態報告や個人記録に記載し、情報の共有を図っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、医療機関と家族様及び当グループホームの管理者と十分に連携を密に行い、入居者様にとって良い支援に努める。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時の一人勤務に不安を感じるが、応急手当及び対処方法の内部研修を行い、緊急時に備えている。また、医療機関や管理者への連絡を徹底している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練を実施。運営推進会議にて非常時には地域の協力を要請している。災害時には建物が使用不可能になった場合、母体施設である特別養護老人ホームへ一時避難が可能である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアに取り組み、言葉掛けや対応には十分配慮に心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から、入居者様が思う事等を汲み取るよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて支援に努めているが、入浴等施設の都合で提供している面もある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や離床時には整容動作及び服装等の支援を行っている。自ら可能な入居者様には、自立支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に嗜好調査をし、入居者様の好みに合わせ一部メニューの変更を行い食事を提供しています。また、入居者様が自ら準備や片付けに携わっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事量・水分量等記載し把握に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの支援や言葉掛けを行い、個々の能力に応じて自立支援を考慮し清潔保持に努めています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄表を活用し、排泄パターンの把握によりトイレでの排泄自立支援に努めている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄表を確認し、水分量・食事量をチェックしている。毎日の牛乳の提供や便秘が継続している際は、医療機関に相談を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決めさせて頂いているが、ゆっくりと入浴が出来るように支援している。また、拒否や体調不良があった場合は、入浴が出来るよう臨機応変な対応を行い清潔保持に努めている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の入居者様の体調や状況に合わせて支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は管理を行っている。与薬の際は、名前を呼びかけ誤薬に注意し、飲み込みの確認も行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事を把握し、役割を持った生活の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>入居者様の全ての希望に沿う事は困難だが、外出計画を立案し、なるべく戸外へ行けるように実施している。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>預かり金(金銭管理)は管理者が行っている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族様や知人より電話があった場合には、取り次ぎを行っている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールの吹き抜け天窓には、直接日光が差さないようステンド調やすりガラスのシールを貼り、長時間ソファで寛いでも快適である。壁には入居者様の作品展示や写真等を掲示したり、季節に合わせて模様替えも行っている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにソファやテーブルを設置し、ゆったりと寛げる環境に努めている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>今まで使用していた馴染みの家具(箆笥や椅子・花瓶・写真等)を持参して頂き、安心して過ごせるよう支援を行っている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自立歩行困難者が多い為、様々な場面で全介助や一部介助が必要だが、自立可能な場面では自立支援を図っていく。</p>		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	夜勤体制が一人なので、急変時等の対応に多少不安がある。	変化を見落とさないように観察に心掛ける。	急変になる前に、予兆があるので健康管理には日頃より十分注意して観察を行う。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。